

農業農村工学サマーセミナー2022 活動報告 Report on Summer Seminar in 2022 supported by JSIDRE

○篠津春花*, 鶴田純也**, 岩瀬充季***, 長瀬由佳****
○IKADATSU Haruka*, TSURUTA Junya**, IWASE Atsuki*** and NAGASE Yuka****

1. はじめに

農業農村工学サマーセミナー（以下、サマーセミナー）は、農業農村工学を学ぶ全国の学生や若手社会人・研究者同士の交流の活性化を目的とした、学生主催のセミナー企画である。例年サマーセミナーは、毎年開催される農業農村工学会（以下、当学会）の大会講演会の後に開催され、第1回（1996年）の開催以降、ほぼ毎年開催されている¹⁾。第23回目となったサマーセミナー2022は、初の試みである対面とオンラインのハイブリッド形式により、9月1日（木）～9月3日（土）に石川県青少年総合研修センターで開催された。当日の参加者は最大で19名（うち対面で15名、オンラインで4名）で、9大学から学生が参加した。本報では、サマーセミナー2022での活動内容および参加者の感想や意見を報告する。

2. 企画・運営

サマーセミナー2022の企画は、これまでの参加者からの要望や意見を参考に、実行委員が持ち寄ったアイデアを整理した。学生や若手社会人・研究者同士の交流を深め、サマーセミナーの活動をより広めることを目標に掲げ、以下のプログラムを企画した。

- 1日目：参加者同士のアイスブレイクを目的としたレクリエーション
- 2日目：「専門以外のNN分野を知ろう」、「サマーセミナーのロゴを作ろう」の2テーマでのディスカッション、懇親会（対面参加者のみ）
- 3日目：大会講演会開催地である金沢市の観光イベント（対面参加者のみ）

広報活動では、昨年度と同様に、当学会の学会誌「水土の知」の会告ページやホームページ、サマーセミナーのホームページおよび農業農村工学会公式LINEアカウントを活用した。加えて、当学会より学会所属の大学の先生や学生会員へ参加募集を行った。

3. 当日の活動

1日目および2日目の進行は対面・オンライン参加者の双方が同時に議論を進められるよう、昨年度および一昨年度のオンライン開催におけるディスカッション方式を参考に、Web会議サービスである「Zoom」（Zoom ビデオコミュニケーションズ）上で行った。ディスカッション時には、対面・オンライン参加者の双方がスムーズにディスカッションや資料作成を行えるよう、Zoomのブレイクアウトセッション機能や、オンラインスライドショー作成ツールである「Google Slides」（Google LLC）を用いた。

2日目のディスカッションの様子を図1に示す。ディスカッションテーマ1「専門以外のNN分野を知ろう」では、普段の活動で交流する機会が少ない学問分野の知見を深め、当学会の12の学問分野についての広範な知識や展開を学ぶことを目的として、農業農村工学分野の研究分野や各々の研究テーマの紹介を行った。ディスカッションは「水文、水質、気象1」、「水文、水質、気象2」、「灌漑排水、生態環境」および「土壌物理、材料・施工」の4グループで行い、各研究分野の概要および各参加者の研究内容に関する発表を行った。質疑応答の際には、発表内容に加えて各グループの発表や資料について良かったと思う点が積極的に発言されるなど、活発な質疑応答となった。ディスカッションテーマ2「サマーセミナーのロゴを作ろう」では、サマーセミナーの

*鳥取大学大学院連合農学研究科 The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University,

**大阪公立大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Osaka Metropolitan University,

***東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agriculture and Life Sciences,

The University of Tokyo,

****サンスイコンサルタント（株） SANSUI CONSULTANT Co., Ltd.

キーワード：若手交流、ハイブリッド開催、アンケート調査

活動内容や意義をより多くの人に知ってもらうためのロゴのデザイン案をグループごとに作成した。ロゴ作成には Google Slides の図形編集機能やペイント機能、フリー画像などを用いた。ロゴの作成中は参加者同士で気軽に意見を出し合いながらサマーセミナーのイメージや意義や要望を考慮して作成する様子が見られ、和気あいあいとした雰囲気でのディスカッションが進行した。

4. サマーセミナーの感想と今後について

サマーセミナー終了後、参加者を対象にアンケート調査を行い、参加者 14 名の回答を得た（実行委員を含む）。以下にアンケート結果の一部を紹介する。

「今回のサマーセミナーはいかがでしたか？」という設問には、約 85%が「非常に楽しかった」、約 15%が「やや楽しかった」と回答した。「【2 日目】ディスカッションは楽しめましたか？」という設問には、約 50%が「非常に楽しめた」、約 35%が「やや楽しめた」、残りが「参加していない」と回答した。「【3 日目】現地観光は楽しめましたか？」という設問には、約 20%が「非常に楽しめた」、約 30%が「やや楽しめた」、約 7%が「普通」、残りが「参加していない」と回答し、対面・オンライン参加者の双方に概ね満足していただけたと考えられる。また、ハイブリッド開催時の進行の改善点として、オンライン参加の人は現地の空気感が分かりにくく、積極的な呼びかけが必要であるという意見が挙げられ、開催方式や進行について課題が残る結果となった。「今回のサマーセミナーに参加して良かったことは何ですか？（複数回答可）」という設問には、参加者の約 90%が「参加者同士で交流できた、交流を楽しめた」、「議論をすることができた、議論を楽しめた」と回答した。次点で「知り合いを作ることができた」が約 80%の回答となり、「農業、農業農村工学について考えることができた」が約 55%、「農業水利施設の見学や現地観光を楽しめた」が約 30%と続いた。その他の回答としては、「懇親会」、「自己分析の材料」などが挙げられた。これらの回答から、学生や若手社会人・研究者同士の交流を深めるというサマーセミナーの目標を達成できたと考えられる。

来年以降のセミナーの開催方法に関する設問では、「対面開催」と「オンライン形式と対面形式のハイブリッド開催」を希望する回答がほぼ同数となった。対面開催を希望する理由には、対面の方が交流しやすいこと、企画以外の雑談や懇親会での交流が有意義であることなどが挙げられた。一方、ハイブリッド開催を希望する理由には、遠方からの参加が可能であり、予定の合う時間だけオンラインで参加できること、開催直前での参加希望にも対応しやすいことなどが挙げられた。今後のサマーセミナーでは、参加者の要望や企画内容に合わせた開催方法を引き続き検討する必要がある。

5. おわりに

初のハイブリッド開催を試みたサマーセミナー2022 は参加者・関係者の尽力のお陰でつつがなく終えることができた。サマーセミナーが、同じ農業農村工学を学ぶ若手の交流の場として今後も継続して開催されるよう、引き続き活動に邁進していきたい。
謝辞 農業農村工学会事務局様、学会所属の全国の大学の先生方および参加者の皆様にはサマーセミナー2022 の開催にあたり多大なるご協力を頂きました。心より御礼申し上げます。

参考文献 1) 中桐貴生 (2015) :学生自主企画サマーセミナーの歴史, 平成 27 年度農業農村工学会大会講演会要旨集, pp.54-55



図1 ディスカッションの様子
 (上:会場, 下:オンライン)

Fig. 1 Pictures of discussion
 (Above: face-to-face, below: Online)